別紙　イ

事 業 結 果 説 明 書

事業の実績の説明

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 令和3年度　ユネスコ活動費補助金　SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業  **教員・学校・地域間の相互エンパワーメントによる「SDGsカリキュラム」の展開と評価方法の開発**  個人（Individual）、学校全体（Whole school）、地域全体（Whole area）に向けた相互エンパワーメントを行い、東北地方におけるSDGsの達成を目的とする本事業を推進する。エンパワーメントとは、個人、学校、地域全体で実践を行っている団体が、目的を同じくするグループ間で情報交換を行い、カリキュラム開発を進めるとともに、個人が地域に働きかける、地域から学校個人に働きかねるなど相互のベクトルを複数創出することを意図している。具体的には、①ESD/SDGsのカリキュラムを考える教員や学校が地域と連携を広げ、すでにESD/SDGsの実践を行っている地域が他地域と連携をとり、お互いにエンパワーメントしながら、ESD/SDGsを推進するモデルの構築を目指こと。②人口減少地域や、被災地域、世界遺産地域、世界農業遺産地域、エコパーク地域などで、本コンソーシアムでのカリキュラムをモデルとして、同様な実践を展開できるようになること。③本コンソーシアムの学習の成果を、東北地方ESD活動支援センター、日本ESD学会の地方研究会と連携し、また他地域のコンソーシアムと共有することによって、全国的に発信すること。以上を目標に活動を展開した。  **1．活動内容**   |  | | --- | | 第1回目「学びあいセミナー」：2021年7月31日（土）　参加人数36名 1.基調講演：棚橋乾（全国小中学校環境教育研究会）  　ホールスクールによるESD/SDGsの活動実践と評価の循環を創る  2.東北地方ESD活動支援センター  　メンバーに向けた東北地方のESD/SDGs活動リソース紹介  3.東北地方サテライト地域からの年度計画発表 　大崎地域、気仙沼地域、平泉地域、只見地域、仙台地域など（予定）  4.個々の教員による本年度の実践計画発表 | | 第2回目「学びあいセミナー」：2021年10月2日（土）　参加人数32名  1.基調講演：安田昌則先生（大牟田市教育委員会　前教育長）  　ホールエリアでESD/SDGsの活動実践を行うための方法とその意義  2.実践発表：上野昌弘先生（新潟市立高志中等教育学校校長）  　新潟から世界につながる課題解決学習の実践と地域コンソーシアムの構築  3.事例発表：水谷瑞希先生（信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設）  　信州ESDコンソーシアム成果発表＆交流会の学校実践  4.事例発表：星英典校長・目黒英樹先生（福島県南会津郡只見町立只見中学校）  　地域と共に学び行動する只見中学校～海と山から学ぶ～ | | 第3回目「学びあいセミナー」東北地方ESD活動支援センターとの共催事業  10月23日（土）・10月30日（土）・11月3日（火・祝）　参加人数150名  地域の素材から考えるESD/SDGs教育の可能性  1.学校×地域の実践事例　大野実紗（気仙沼市立階上中学校）  　私たちは未来の防災戦士  2.学校×地域の実践事例　目黒英樹（只見町立只見中学校）  　地域とともに学び行動する只見中学校  3.拠点×拠点×学校×海外　内藤恵子（仙台ユネスコ協会）  　キリバス共和国に学ぶユネスコ教育  4.拠点×東北地方ESD活動支援センター　貝森毅彦（フォーラム実行委員会）  　ESD/SDGsからつながるあおもりの輪 | | 探究型学習・課題研究発表会：2022年1月29日（土）　参加人数40名  児童生徒の探究型学習・課題研究探究型学習発表会  1.宮城県気仙沼市立面瀬中学校「気仙沼の農業」  2.福島県只見町立只見中学校「地域と共に学ぶ只見中学校」  3.宮城県東北学院中学校「St.Patrick校とのSDGs共同学習」  4.宮城県気仙沼市立階上中学校「今、自分には何ができる？～海洋ごみゼロを目指して～」  5.宮城県仙台第三高等学校「環境と安さを考えた日焼け止め」  「冬の暖房の使用を抑えた暖かいリビングづくり」  6.山形県立加茂水産高等学校　「山形県の海洋プラスチックゴミに関する現状調査」  7.青森県八戸工業大学第二高等学校　「マイクロプラスチックについて」  8.福島県立安達高等学校「女の子になる、男の子になる、わたしになる」  9.宮城県多賀城高等学校「防災・減災とグリーンインフラ　～防潮林の在り方～」 | | 第4回目「学びあいセミナー」：2022年2月19日（土）　参加人数：35名  ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム成果報告会  1.福島県会津地域におけるESD/SDGsの 展開について考える； 会津ユネスコ協会、只見町教育委員会、 只見中学校、猪苗代中学校、大戸中学校 会津大学、宮城教育大学、その他  2.山形における今年度のESD授業実践と 活動を振り返る  3.サテライト地域からの報告 大崎地域・気仙沼地域など  4.2022年度の活動に向けて | | **その他共催した会議**参加人数：120名  東北ESD/SDGsフォーラム2021 みちのくSDGs in あおもり ～人づくりから広がるSDGsの力  日時　2021年1017日（日）13：00～15：45  会場 青森ウェディングプラザアラスカ、YouTube配信  1.ESDやSDGsを青森視点から学ぼう！  ESDとSDGsの事例を対話形式で青森の視点から話す  総合司会：西川綾乃氏  講師：藤公晴氏（青森大学社会学部教授・青森大学SDGs研究センター長）  2.ショートプレゼンテーション あおもりの事例に触れよう！  青森県内でESD/SDGsの活動を行う９つの団体の活動紹介 |   **２．活動指標・成果指標から見た成果**  ①オンラインコミュニケーションツールの活用による交流が進む  オンラインツール（オンライン配信・YouTube配信）を活用した教員、学校、地域間で教育実践例や教材、評価手法等の成果のやりとりが行われた。山形ESD研究会×東北コンソーシアム、東北学院中学高等学校×新潟高志高校の教育実践例や成果の共有など多くの交流が活発化した。  ②SDGs学びあいセミナーを通して、教員、学校、地域間で交流が進む。関係者が増加する。  ・青森県では、フォーラム実行委員会により、学校、企業、NPO団体などがSDGsを推進する9つの団体が集まり、今後、青森県でESD/SDGsを協働で推進する体制ができた。  ・山形県では、山形ESD研究会によるESD/SDGs教育実践例や教材開発が進んだ。山形県教員毛集センターや、上山市学校教育研究会社会科部会など、研究会以外でもSDGsに関わる教育の促進が図られた。  ・福島県では、只見町教育委員会と学校の取組みが波及し、会津ユネスコ協会、猪苗代中学校、大戸中学校 会津大学、会津学鳳高校などを中心に会津地域で、ESD/SDGsを推進する機運が高まった。  ③動画配信：教員のSDGs授業、生徒の探究学習・課題研究の配信によって、SDGsの達成を念頭においた教育方法の研究が進む。  生徒の「探究型学習・課題研究学習発表会」を配信することで、SDGsの達成を念頭においた探究型学習・課題研究の取組が進展した。内容面では海洋プラゴミや気候変動、ジェンダーについての探究に深化がみられた。方法面では、生徒自身が評価し探究の取組を進める手法に進展がみられた。  ④地域の主催による活動、高度化地域・事例地域の現地検討会を通して地域間で教育実践例や教材等の成果のやりとりが行われる。  気仙沼地区：ESD/ユネスコスクール研修会（6月/1月）、ESD円卓会議（11月）、福島・安達地区：安達高校ESD公開研究発表会（8月）、福島・只見地区：只見町公開研究会（11月）など高度化地域の現地検討会において、地域間で教育実践例や教材等の成果のやりとりが行われた。  **３．成果の発信と還元**  ①教員による個別の研究成果の発信  山形ESD研究会の研究成果としての実践事例が、日本ESD学会近畿地方研究大会や、アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）で発表された。仙台ユネスコ協会、多賀城高校の実践事例が、日本ESD学会で発表された。只見町只見中学校の事例が、ESD for 2030の国際シンポジウムなど国際場面を含む多方面で紹介された。  ②コンソーシアムの成果の発信と協働  東北コンソーシアムの活動は、東北地方ESD活動支援センター、日本ESD学会、日本学術会議「ESD/SDGsカリキュラム小委員会」、信州BRコンソーシアムや、奈良教育大学ESDティーチャープログラムと連携・協働し、それらの活動の中で発信されている。また、日中韓環境教育共同プロジェクト比較調査に参加し、成果が公開された。  SDGs/ESD学びあいセミナーの動画および学校実践の動画をESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムのホームページで公開し、内容を学ぶことができるようにした。成果報告書『地球市民による地域資源を活用したSDGｓ・ESDカリキュラム開発』の内容をについて、増刷して、配布した。ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムパンフレット『ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムで取り組むESD/SDGｓ』英語版を上述のホームページで公開した。  SDGs/ESD「学びあいセミナー」3回の内容について動画映像の文字化し報告書を印刷中である。ホームページ上に報告書として掲載する。  成果ホームページ：  　探究型学習・課題研究学習発表会｛<https://hokkaidotohokuaspnet.com/>｝  　ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム｛<http://xs269206.xsrv.jp/touhoku/>｝  令和4年度は特に評価方法の開発を行い、2年間の活動成果による調査データから、SDGsを推進することによる、児童生徒、教員、学校、地域の変容についての評価の検討を事業の中心に据える。 |